

令和7年度

「運営に関する計画」

～自己評価～

(最終評価)

大阪市立みどり小学校

令和8年2月

(様式1)

大阪市立みどり小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【不登校児童の現状】

不登校・不登校気味の児童はかなり多いが、これら児童は、担任を中心とする学年での働きかけや養護教諭・栄養教諭・教務主任・サポーター等々の教職員による登校支援と安心して活動できる居場所の確保などを通じて、全てではないが、一部の児童について登校できるようになったり、一定時間学校で活動できるようになったりするなどの改善がみられる。一方、新たに不登校・不登校気味となる児童が現れる状況が毎年続いている。

【いじめ事案の発生状況】

例年、数十件のいじめ事案が発生する。どの事案も重大事態には至っておらず、また、すべての事案について解決に至っている。いじめの様態としては「冷やかしかりからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が大多数で、「仲間はずれ、集団による無視をされる」「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」と続く。1000人当たりの比率を比較すると、本校は本市平均に比べかなり低い数値となっている。これは、生活指導委員会を中心にクラスの状況把握やいじめの早期発見の体制を整え、クラス担任を中心に丁寧に児童の観察・看護を行っている結果であると考えられる。

【家庭状況等の現状】

令和6年度に2件のケースについて子どもサポート連携して対応してきた。このうち1件については令和7年度以降も継続しての対応となる。

【全国学力・学習状況、学力経年調査の結果】

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の平均正答率は国語科が69.0%(全国67.7%)、算数科が62.0%(全国63.4%)となり、国語科は全国平均を上回ったものの、算数科は僅かに下回った。正答率分布をみると、国語科は正規分布ではあるが低位層の幅が広い。算数科については、正答率が8割と5割とそれ以下の3極の分布となっている。

令和6年度「学力経年調査」では、同一母集団について調査結果の経過を見ると、調査対象となった4、5、6年生について教科毎の標準化得点は5年生については上昇の傾向が見られた。4・6年については、前年度よりやや下降していた。

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果】

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点は、男子60.0(大阪市51.1、全国52.5)、女子60.1(大阪市52.5、全国54.0)と男女とも大阪市平均および全国平均を上回った。男女とも大阪市平均および全国平均を下回ったものは「握力」のみであり、他は上回っていた。

【本校の課題】

不登校・不登校気味児童の在籍比率（2.51）が大阪市全体の在籍比率（1.97）を上回り、また新たな不登校・不登校気味児童も毎年複数名確認される状況を克服していく必要がある。いじめが不登校の要因となることもあるが、本校においても一定数のいじめ事案が確認されており、いじめ事案の早期発見および丁寧で確実な対応を行いいじめ事案の解消に努めていく必要がある。

こうした課題の克服にむけて、年間の教育活動を通じて多様な活動を取り入れた教育内容を提供することで児童の規範意識、協力・協働の姿勢、他者受容の姿勢を醸成し、また、児童個々の自己肯定感を高めていく必要がある。

学力面に関しては、正答率分布の下位層の児童が課題である。分かる授業楽しい授業の提供、個別最適化された授業の提供を通じて、児童の学習意欲の向上および基礎学力の確実な定着を図っていく必要がある。

体力・運動能力面については、多くの種目で大阪市平均および全国平均を上回る結果となっている。さらに、多様な運動に親しむ機会や体力向上に向けた取り組みを継続的に行っていく。

教職員の「働き方改革」にも取り組んでいるが、単に勤務時間を短縮すればよいというわけではなく、質の高い教育のための各種の準備が必要であり、そのディレンマが課題となっている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、その解消した割合を98%以上にする。 ⇒(12月 6年生の2件 指導・連絡済み 3か月間の経過観察中)
- 令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「学校が楽しい」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を97%以上にする。 ⇒95.8%(高学年96.0% 低学年95.5%)
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。
- 令和4年度から令和7年度の年度末の校内調査において、学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をとったケースの割合を毎年100%とする。
⇒(4年 1名 5年 1名)
- 令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「学校のきまりを守っている」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を96%以上とする。
⇒95.8%(低学年95.1%・高学年96.4%)
- 令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を低学年については93%以上、高学年については85%以上とする。
⇒89.4%(低学年90.2%・高学年88.5%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の国語科の平均正答率について、全国平均との差を+3ポイント以上とする。 ⇒〔R7 -1.8 全国(66.8) みどり(65)〕
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の算数科の平均正答率について、全国平均との差を+3ポイント以上とする。 ⇒〔R7 -1.0 全国(58) みどり(57)〕
- 令和7年度の小学校学力経年調査の国語科・算数科・理科について、平均正答率4割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
⇒〔国4.4% 算8.2% 理3.1%〕
- 令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「国語、算数の授業はよくわかる」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を87%以上とする。
⇒〔低学年94.3% 高学年92.4%〕
- 令和7年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点を男女ともに令和3年度よりも4ポイント増加させる。 ⇒〔男54.4 女52.3〕
- 令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「体育の時間しっかり運動している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を98%以上とする。 ⇒〔R7 97.8%〕

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。
⇒〔前期87.7% 後期92.6%〕
- 令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「進んで本を読んでいる」の質問にたいして肯定的な回答をする児童の割合を80%以上とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【1 安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。

⇒（R7 86%）

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

⇒R6 一年間で欠席が30日以上のもの18名（うち5名を不登校指定）618名在籍

R7 2学期までに欠席が30日以上のもの36名（理由が病気等を除く者14名を不登校指定）609名在籍 ⇒R7（5.9%） R6（2.9%）

○令和7年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、その解消した割合を98%以上にする。

⇒〔1学期…3年生の1件解消 2学期…6年生の2件 指導・連絡済み3か月間の経過観察中〕

○令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「学校が楽しい」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を97%以上にする。 ⇒95.8%（高学年96.0% 低学年95.5%）

○令和7年度末の校内調査において、学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をとったケースの割合を100%とする。 ⇒100%〔4年1件、5年1件〕

○令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「学校のきまりを守っている」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を88%以上とする。

⇒95.8%（低学年95.1%・高学年96.4%）

○令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を（低学年93%、高学年85%）以上とする。

⇒89.4%（低学年90.2%・高学年88.5%）

【2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。 ⇒（R7 47.1%）

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。

⇒（R7 75.3%）

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の国語科の平均正答率について、全国平均以上とする。

⇒〔R7 ー-1.8 全国（66.8）みどり（65）〕

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の算数科の平均正答率について、全国平均以上とする。

⇒〔R7 ー-1.0 全国（58）みどり（57）〕

○令和7年度の小学校学力経年調査の国語科・算数科・理科について、4年生以上の平均正答率4割未満の児童の割合を、前年度（国11.8% 算14.3% 理9.1%）より減少させる。

⇒〔国4.4% 算8.2% 理3.1%〕

○令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「国語、算数の授業はよくわかる」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を92%以上とする。

⇒〔低学年94.3% 高学年92.4%〕

○令和 7 年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点を男女ともに前年度（男 57.8 女 56.8）よりも増加させる。

⇒〔R7 男 54.4 女 52.3〕

○令和 7 年度の校内児童アンケートにおいて、「体育の時間しっかり運動している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上とする。

⇒〔R7 97.8%〕

【3 学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

⇒80%超えた日は 1,2%⇒C

○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 85%以上にする。

⇒現状 90%→A

○令和 7 年度末の校内児童アンケートにおいて、「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 87%以上にする。

⇒〔前期 87.7% 後期 92.6%〕→A

○令和 7 年度末の校内児童アンケートにおいて、「進んで本を読んでいる」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上とする。

⇒〔前期 75.6% 後期 72%〕→C

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度行った自己評価では、年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標13項目中、A評価が3項目、B評価が9項目、C評価が1項目という結果になった。

「安全・安心な教育の推進」では、5項目中、A評価が1項目、B評価が3項目、C評価が1項目となり、概ね年度当初の年度目標は達成されたためB評価とした。

本年度の校内児童アンケート「学校が楽しい」の項目において、肯定的な回答をする児童が95.8%となっており「学校が楽しい」と感じている児童が大変多いことが伺える。また、校内アンケート「自分にはよいところがある」についても肯定的な回答をする児童は89.4%となっており、自己肯定感が大きく育ってきているといえる。

いじめに関しては、本校でも3件の事例が認められた。いじめの早期発見のため定期的にいじめアンケートを行うとともに日頃から児童の友達関係についても注視している。さらに生活指導委員会を中心として情報交換・共有を行い、いじめ問題、虐待、学校生活の問題行動について、組織的に取り組んでいるところである。今後も継続して取り組みをすすめていく。

不登校について、年間欠席30日以上の子どもの数は、昨年度よりも増加傾向にある。生活指導委員会を中心に、学期内に欠席日数が10日を越える子どもの抽出と原因の把握、改善策を細やかに検討していく取り組みを継続して実施している。また、「いいとこみつけ」への登録を行い、共通理解もすすめているところである。今後も関係諸機関やスクールカウンセラーとの連携を密にし、対応をすすめていく。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、4項目中、A評価が2項目、B評価が2項目となり、概ね年度当初の年度目標は達成されたためB評価とした。

学力の向上に向けて、研究授業や研修会などを取り入れたより具体的な学力向上委員会を行っている。教科担任制も、各学年の実態に応じて部分的に行い、レディネステストを通じて授業改善につなげることができた。今後も、子どもの実態把握をよりの確に行い、学力の向上に努めていく。

体力の向上に関しては、体力向上委員会を2か月に1度実施している。体力テストの研修や授業改善のために使用可能な体育の物品の選定など各学年で行い、子どもの運動能力や体力向上に向けた取り組みを計画的に実施している。また、健やかな身体の育成をめざして、保健日より、給食日より、生活目標を各教室に掲示し注意喚起を行っている。

今後も、体力向上委員会において体育科の授業改善や環境整備、研修についても引き続き取り組みをすすめていく。

「学びを支える教育環境の充実」では、4項目中、全てB評価となり、概ね年度当初の年度目標は達成されたためB評価とした。

校内アンケート「ICTを活用して新たにわかったことがあった、疑問が解決できた」において、肯定的な回答をする子どもの割合は87.7%となり目標を達成することができた。その一方、「学習者用端末を活用した日数が年間授業日の80%以上にする」については、80%を超えた日が1.2%となっている。今後は、日頃の学習の中でそれぞれの教科の特性に応じた活用を意識することで「新たな発見」や「疑問の解決」ができるよう効果的に活用していくようにしていく。

読書活動については、校内アンケート「進んで本を読んでいる」において、肯定的な回答をする子どもの割合は72%となり目標をやや下回った。本との出会いを大切に、学級文庫の入れ替え、朝の読書、隙間時間の読書活動を継続していく。また、教科の関連を意識した図書資料の活用を進めていく。

今回の結果を元に、改善すべき取り組み内容を明確にするとともに、令和8年度は中間目標の見直しを行い、具体的な方策を検討して、日々の指導が充実したものとなるよう努めていく。

大阪市立みどり小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。 ⇒R7 86%</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ⇒R7 2学期までに欠席が30日以上のもので36名(理由が病気等を除く者14名を不登校指定)609名在籍(R6(2.6%))</p> <p>○令和7年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、その解消した割合を98%以上にする。⇒(1学期 3年生の1件解消 2学期 6年生の2件 指導・連絡済み3か月間の経過観察中)</p> <p>○令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「学校が楽しい」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を97%以上にする。 ⇒95.8%(高学年96.0% 低学年95.5%)</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をとったケースの割合を100%とする。 ⇒R7 100%(4年1件、5年1件)</p> <p>○令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「学校のきまりを守っている」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を88%以上とする。 ⇒95.8%(低学年95.1%・高学年96.4%)</p> <p>○令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を(低学年93%, 高学年85%)以上とする。 ⇒89.4%(低学年90.2%・高学年88.5%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 「個人の尊厳」を守り、互いを思いやり、いじめを起こさない集団を育む。(生)</p> <hr/> <p>指標① 校内児童アンケートにおいて、「学校は楽しい」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を95%以上とする。(R7 95.8%)「学校のきまりを守っている」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を95%以上とする。(R7 95.8%)</p> <p>指標② いじめ等、問題行動を「いいとこみつけ」に記載し、情報の保存・共有・引継ぎを行う割合を100%とする。</p>	A

<p>取組内容②【1安全・安心な教育環境の実現】 不登校・不登校気味児童、課題を抱える家庭への適切な働きかけを行う。(生)</p> <hr/> <p>指標① 不登校・不登校気味の現状を「いいところみつね」「個別の支援計画」に記載し、校内で共通理解を図る。不登校・不登校気味になる原因を探り、不登校児童の発生の抑制・改善割合を前年度以上とする。また、不登校・不登校気味児童への対応を学級担任以外にも支援できる体制の構築に取り組む。(関係諸機関と連携支援体制⇒SC・不登校ルーム(仮)・区役所・放課後等デイサービス等)</p> <p>指標② 生活指導委員会を毎月開催し、児童および児童の家庭環境についての情報交換とスクリーニングを行い、必要な児童・家庭に対応策をとる。学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をとったケースの割合を100%とする。</p>	C
<p>取組内容③【1安全・安心な教育環境の実現】 防災・減災教育を推進するため、避難方法を周知するとともに、「自助・共助・公助の精神」などの防災意識の向上を図る。(生)</p> <hr/> <p>指標 震災、津波、火災、風害を想定した避難訓練を年間を通して計画し、各学期に1回実施する。また、教員へ向けての訓練も併せて実施する。</p>	B
<p>取組内容④【2豊かな心の育成】 共に学び、共に育ち、共に生きる子どもの育成をめざした人権教育・特別支援教育に取り組む。(研)</p> <hr/> <p>指標① 教員研修会や連絡会を毎学期行うとともに、各学年・学級での実践を年1回交流し共通理解を図る。</p> <p>指標② 共に学び、共に育ち、共に生きる子どもの育成をめざした人権教育および特別支援教育の推進に向けて、全体計画・年間計画の作成と年間を通じた実践を行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【2豊かな心の育成】 キャリアパスポートや懇談会も活用し、児童の自己肯定感・自己有用感の向上に向けた教育の充実を図る。(健)</p> <hr/> <p>指標① 校内児童アンケートにおいて、「自分にはいいところがありますか」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を低学年については90%以上、高学年については80%以上にする。</p> <p>指標② キャリアパスポートを活用し、児童面談や保護者との個人懇談会を年間2回行う。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【1安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>指標①② 校内児童アンケートにおいて、「学校は楽しい」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合は昨年度末94.6%。今年度は95.8% (高学年96.0% 低学年95.5%)であった。最終評価では、年間の目標である95%を上回っている。例年は低学年の肯定的な意</p>	

見が高学年を大きく引き離すことが多いが、今年度も僅差にて高学年が上回る傾向が見られる。また、共に肯定的な傾向が強まっていることから在学年数と共に「学校が楽しい」児童が増加していると思われる。また、高い水準での推移が定着しつつあるものとも見られる。

生活指導委員会を中心に「いいところみつけ」を活用し、児童の様子をより密に交流する仕組み・ルール作りを行い実施していること。いじめ問題を含めて虐待や学校生活の問題行動について、学校全体で問題に取り組む仕組みがあること。左記2点の長期的な取り組みが効果を発揮しているものと思われる。

取組内容②【1安全・安心な教育環境の実現】

指標①②

R6年度末の年間欠席30日以上の児童数は、18名であった。不登校・不登校気味の児童は5名であった。今年度、最終評価時点での欠席日数30日以上の児童数は36名である。生活指導委員会を中心に、学期内にて欠席日数が10日を越える児童の抽出と原因の把握や改善策を細やかに検討していく取り組みを継続して実施している。また、「いいところみつけ」への登録を行い、共通理解も進んでいる。生活指導委員会はスクリーニングⅠ会議と連動する仕組みとなっている。これにより、区役所、SCを含めたスクリーニングⅡ会議へと円滑に情報を移行させることで行政との連携が可能な仕組み作りが進んでいる。しかしながら不登校・不登校気味の原因のうち、病欠・受験等の原因が明らかなものを省き、原因が家庭環境等に起因するものが年々増加している。

具体的な対応として最も多いものが、校内での「不登校ルーム(仮)」と、関係諸機関(区役所と連携しての)「放課後等デイサービス」の活用である。児童の居場所作りとして有効であるとは考えられるが不登校解消に向けての根本的な解決策とは言い難い現状である。

取組内容③【1安全・安心な教育環境の実現】

校区内にある、関目自動車学校をはじめとする関係諸機関との連携をはかり、児童への効果的な交通安全指導を計画・実施した。

各種災害対策や児童生活の中での安全・安心な生活を希求した、より現実的な計画を立案し実施した。

取組内容④【2豊かな心の育成】

指標①

教員研修会や交流会を計画通り行えている。さらに、鶴見区人権教育実践交流会において参加協力できた。また、校内の人権・特別支援教育の報告会を行った。

指標②

全体計画・年間計画を立て、計画通りに進められている。

取組内容⑤【2豊かな心の育成】(健)

指標①

校内児童アンケートの「自分にはいいところがありますか」という質問に対して、低学年が後期90.2%であった。高学年は後期88.5%であった。低学年、高学年ともに目標値を上回った。特に高学年の目標値より大きく上回り、多くの児童が自分に対して自信をもって生活ができている。

指標②

年2回の個人懇談を計画通りに実施し、必要に応じてキャリアパスポートを活用しながら保護者と児童の様子や学習などについて話し合うことができている。

次年度への改善点

取組内容①（いじめ問題）

引き続き、毎月に生活指導委員会・スクリーニング会議Ⅰを開催する。当会議を中心にいじめ・問題行動について校内や関係諸機関と情報交換を行う。またそれらの話し合いにおいて、問題ごとに内包する課題を討議し、解決への手立てを模索し続けていく。また、その経過や結果の「保存・共有・引継ぎ」を実施していく。

取組内容②（不登校問題）

不登校・不登校気味の現状を「いいところみつけ」「個別の支援計画」に記載し、校内で共通理解を図る。また、不登校・不登校気味児童への支援・対応を学級担任と担任以外が不登校ルーム（仮）を含めて、協力して効率的に取り組む体制の構築・改善に取り組み続ける。（全国的に不登校児童が増える昨今において）不登校率の改善を念頭に置きつつ、児童個々人が社会に属したり、社会生活を営む為の資質を涵養したりする機会を作る方法を模索し続けていく。区役所、SC との円滑な連携を行い、保護者への効果的な情報提供と、それに伴う児童へのさらなる支援策を模索・共有する仕組み作りをより進めていく。

取組内容③（防災・減災）

震災、津波、火災、風害を想定した避難訓練を年間を通して計画し、実施を行う。また、必要に応じて教員へ向けての訓練も併せて実施する。

取組内容④（人権・特別支援教育）

本年度に引き続き生活指導委員会と連携し、さらなる人権教育の充実を図る。

取組内容⑤（自己肯定感）

自己肯定感に関する質問に対して肯定的な回答が目標値より上回っているが、1割程度の児童が否定的な回答を行っている。引き続き学校行事や日常生活の中で、自分の良さに自信を持つことができるような児童を心かける必要がある。また、課題を克服できるようになる指導・支援を行う必要がある。

大阪市立みどり小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>50%以上</u>にする。</p> <p style="text-align: right;">⇒ [47.1%]</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>80%以上</u>にする。</p> <p style="text-align: right;">⇒ [75.3%]</p> <p>○令和7年度の全国学力・学習状況調査の国語科の平均正答率について、<u>全国平均以上</u>とする。</p> <p style="text-align: right;">⇒ [R7 --1.8 全国 (66.8) みどり (65)]</p> <p>○令和7年度の全国学力・学習状況調査の算数科の平均正答率について、<u>全国平均以上</u>とする。</p> <p style="text-align: right;">⇒ [R7 -1.0 全国 (58) みどり (57)]</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査の国語科・算数科・理科について、4年生以上の平均正答率4割未満の児童の割合を、<u>前年度 (国 11.8% 算 14.3% 理 9.1%)</u>より減少させる。</p> <p style="text-align: right;">⇒ [国 4.4% 算 8.2% 理 3.1%]</p> <p>○令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「国語、算数の授業はよくわかる」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を <u>90%以上</u>とする。</p> <p style="text-align: right;">⇒ [低学年 94.3% 高学年 92.4%]</p> <p>○令和7年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点を男女ともに前年度 (男 57.8 女 56.8) よりも増加させる。</p> <p style="text-align: right;">⇒ [男 54.4 女 52.3]</p> <p>○令和7年度の校内児童アンケートにおいて、「体育の時間しっかり運動している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を <u>98%以上</u>とする。</p> <p style="text-align: right;">⇒ [R7 97.8%]</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学力向上をめざし、分かる授業、楽しい授業に向けた授業改善に取り組む。また、学力向上委員会や研究推進委員会の活性化を図る。(研)</p> <hr/> <p>指標①</p>	B

<p>各学年の授業研究会を行うとともに、メンター研修会、校内研修会など教員のニーズに合った各種研修会を年間10回以上行う。</p> <p>指標② 児童の実態把握を進め、授業改善を図るため、学力向上委員会を隔月開催する。学力向上委員会では、教職員のニーズに応じた研修も行う。</p> <p>指標③ 研究推進委員会を各学期1回開催し、研究推進の方向性の決定や研究活動の進捗度合いを確認すると共に、全学年1回以上の研究授業を実施する。</p> <p>指標④ 校内児童アンケートにおいて、「国語、算数の授業はよくわかる」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を85%以上とする。</p>	
<p>取組内容②【4誰一人取り残さない学力の向上】 基礎・基本の定着による学力の向上をめざし、朝の時間の活用を図る。(研)</p> <p>指標 週3回の朝の時間を活用して英語や漢字、計算の学習に取り組む。</p>	B
<p>取組内容③【5健やかな体の育成】 児童の個別の課題を把握しながら体力の向上を図る。また、体力向上委員会を活性化し体育科の授業改善や体育的行事を計画実施する。(健)</p> <p>指標① 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点を男女ともに大阪市平均より1ポイント増加させる。</p> <p>指標② 体力向上委員会を隔月開催し、各学年の体力・運動能力に関する実態把握を進めるとともに、体育科授業の改善や体力・運動能力向上に向けた取組を計画し実施する。</p>	A
<p>取組内容④【5健やかな体の育成】 「保健だより」「給食だより」等を定期的に提供し、児童に規則正しい生活習慣が身に付くように発達段階に応じた指導を図る。(健)</p> <p>指標① 校内児童アンケートにおいて、「三食(朝食、昼食、夕食)をしっかりと食べようとしている」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。</p> <p>指標② 保健だより、給食だより、生活目標を毎月提供し、それらをもとに各学級や全校朝会などで指導を行う。</p> <p>指標③ 校内児童アンケートにおいて、「学校のきまりを守っている」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を92%以上とする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【4誰一人取り残さない学力の向上】

指標①

各学年1本の研究授業を予定通り行えている。若手対象のメンター研修など、ニーズに合わせた研修を計画通り進められている。

指標②

研究授業や研修会などを取り入れた、より具体的な学力向上委員会を行っている。教科担任制も、各学年で工夫して行い、レディネステストを通じて授業改善につなげている。

指標③

授業研究会を全学年で行うとともに、研究推進委員会を各学期1回開催した。

指標④

校内児童アンケートの結果、国語、算数の授業について高学年は約92.4%、低学年は約94.3%が肯定的な回答をしており、当初の目標である90%を超えた。

取組内容②【4誰一人取り残さない学力の向上】

朝の時間を各学年の実態に合わせて、英語や計算、漢字の学習、朝読書などに充てるように工夫している。

取組内容③【5健やかな体の育成】(健)

指標①

「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の大阪市平均(男子51.5女子52.5)と比べて、男子は8種目中5種目が平均値を上回り、合計で3ポイント上回る結果となった(男子54.3)。また、女子は8種目中立ち幅跳びのみが大阪市平均を上回り、残りの種目は下回った。女子の合計値としては、大阪市平均とほぼ同じくらいであった(女子52.2)。

指標②

体力向上委員会を2か月に1度実施できている。体力テストの研修や授業改善のために使用可能な体育の物品の選定など各学年が集まり、児童の運動能力や体力向上に向けた取り組みを計画的に実施している。

取組内容④【5健やかな体の育成】(健)

指標①

校内児童アンケートの「三食をしっかり食べようとする」という質問に対して、肯定的な意見が低学年で後期95.5%、高学年で後期96.8%であり目標値を上回っている。

年2回、給食週間を設定して、給食を頑張っている取り組みを行ったり、冬の給食週間では給食委員会の発表を行ったりと食べることの大切さを伝える活動を行っている。

指標②

保健だより、給食だより、生活目標を各教室に掲示し注意喚起を行っている。また、児童朝会や給食時の校内放送で各委員会から呼びかけを行い、意識できるように取り組んでいる。

指標③

校内児童アンケートの「学校の決まりを守っている」の質問に対して、肯定的な意見が低学年で後期95.1%、高学年で後期96.4%と目標値を上回っている。

次年度への改善点

取組内容①

児童の実態把握をよりの確に行い、授業改善に努めていく。研究教科を中心として、授業をより充実したものにできるように、授業研究会を行っていく。

取組内容②

朝時間を各学年の実態に合わせ、英語や計算、漢字の学習、朝読書などに充てるように引き続き工夫する。

取組内容③(体力向上)

今年度、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が大阪市の平均値と比べると、男子は上がっているが女子は少し下回った。種目ごとに分析すると、男女ともに大阪市の平均値を下回っていたのは長座体前屈であった。来年度は、学校全体で柔軟を意識した取り組みを実践していきたい。

また、体力向上委員会で体育科の授業改善や環境整備、研修についても引き続き取り組んでいく必要がある。

取組内容④(食育・保健・生活習慣)

指標③

校内児童アンケートの結果では、目標値を上回っており多くの児童が学校の決まりを守ろうと意識することができている。一方、廊下を走ってしまったり、掃除当番が正しくできていなかったりする場面を見かけ指導することがある。今後も引き続き指導を行う必要がある。

大阪市立みどり小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の<u>50%以上</u>にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ⇒〔80%超えた日は1.2%〕→C</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を<u>50%以上</u>にする。 ⇒〔現状 90%〕→A</p> <p>○令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を<u>90%以上</u>にする。 ⇒〔前期87.7 後期92.6%〕→A</p> <p>○令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「進んで本を読んでいる」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を<u>80%以上</u>とする。 ⇒〔前期75.6% 後期72%〕→C</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DXの推進】</p> <p>一人一台学習者用端末の環境を生かし、タイピング練習、画像や製作物の保存や展開、ネット検索、発表ノートやパワーポイントの作成等において段階的な指導を進め、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を進める。(教)</p> <p>指標</p> <p><u>ICTを活用し、児童が「新たにわかったことがあった」「疑問に思っていたことが解決できた」と実感できるような取り組みを進める。また、校内児童アンケートにおいて「ICTを活用して新たにわかったことがあった、疑問が解決できた」と肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。</u></p>	B
<p>取組内容②【8 生涯学習の支援】</p> <p>子どもたちが進んで本に親しむ環境を整備し、「読書のできる時間の設定」「読書カードの活用」「学級文庫の定期的な入れ替え」などを行うことで、学校図書の効果的な活用に取り組む。(教)</p> <p>指標①</p> <p>各教科との関連図書を活用する取組を年に2回以上行う。</p> <p>指標②</p> <p>校内児童アンケートにおいて、「学校で本を読む時間がある」か「本を読むことが好きだ」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を85%以上とする。</p>	C

<p>取組内容③【9家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ゲストティーチャーや地域の方、体験的な活動ができる関係機関などの協力を得ながら、各学年の実態や発達段階に応じた活動を取り入れる。<u>また、各教科・単元と関連付けて行う。(教)</u></p>	A
<p>指標 各学年の実態に応じ、教科との関連も加味しながら、体験的な学習を全学年とも年間2回以上取り入れる。</p>	
<p>取組内容④【9家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 円滑な教育活動に取り組めるよう徴収金業務を滞りなく実施する。(庶)</p>	A
<p>指標 教育資源である資金の管理について、毎月「未納通知」による周知を行い、2月までに未納率を10%以下にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>年度目標達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTの活用率・・・5月～7月、54日の状況。80%以上の日は、4/54日で7%、70%以上の日が28/54日で51%、60%以上の日が20/54日で37%となっていた。 後期は、80%を超えた日は、1, 2%→C 次年度も引き続き効果的な活用を進める。 ○年休取得・・・年間行事、会議、研修などスケジュールを管理することで、学級事務・教材研修・学習整理ができる時間を確保してきた。そうすることで年休取得が計画的に行いやすい環境を整えた。結果、90%。 ○端末の使用・・・前期は全校平均87.7%と昨年度より1ポイント向上している。後期は、全校平均が92.6%と活用においては大きく向上している。 ○本を読んでいる・・・前期は全校平均75%となっている。後期は全校平均72%であった。低学年で86.2%から83.5%、高学年で65.1%から60.5%、次年度以降も取り組み項目にそって各教科と図書資料の関連を図りながら取り組みを進める必要がある。 	
<p>取組内容①【6教育DXの推進】</p>	
<p>前期全校平均が81.6%となっている。後期は、87.7%であった。</p>	
<p>取組内容②【8生涯学習の支援】</p>	
<p>低学年で86.2%から83.5%、高学年で65.1%から60.5%であった。高学年では毎週の図書の時間の確保が課題となっている。隙間時間の読書が「本を読んでいる」という意識に結び付いていないように感じられる。</p>	
<p>取組内容③【9家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p>	
<p>前期には、全学年「お話の会」を行った。後期には、交通安全指導(1, 3, 5年)や地域連携「土曜防災教室」(全校)・音楽鑑賞会(全校)を計画・実施できた。併せて各学年、ゲストティーチャーの招聘や地域と連携した体験的な学習を予定している。</p>	
<p>2, 4, 6年異文化交流 1, 2年昔遊び体験 5年防災体験 6年職業体験など</p>	
<p>取組内容④【9家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】(庶)</p>	
<p>引き続き、教育資源である資金の管理について、毎月「未納通知」による周知を行い、2月までに児童費の未納率を10%以下にすることを継続して行っていく。</p>	

次年度への改善点

取組内容①

それぞれの教科の特性に応じた活用を意識することで「新たな発見」や「疑問の解決」に効果的に活用していく。例えば、国語科・社会科・理科(生活科)では学びを生かした調べ学習を設定し、新聞づくりやパワーポイントでの発表づくりなどが考えられる。図工科や体育科では映像資料を活用することでゴールイメージを持たせたり知識と技能を結び付けながら学ぶツールとして活用したりすることが考えられる。

取組内容②

教科の関連を意識した図書資料の活用を進める。また、学級文庫の入れ替え、朝の読書、隙間時間の読書活動を継続していく。そうすることで本との出会いの場を増やしていく。

取組内容③

現状どの体験的な学習も実生活の中で生かしていくことのできる貴重な体験となっている。それぞれの学年の発達段階や系統性を踏まえた地域連携体験的な学習を設定していく。

取組内容④【9家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】(庶)

引き続き、教育資源である資金の管理について、毎月「未納通知」による周知を行い、2月までに児童費の未納率を10%以下にすることを継続して行っていく。